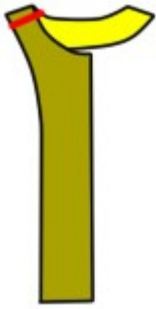
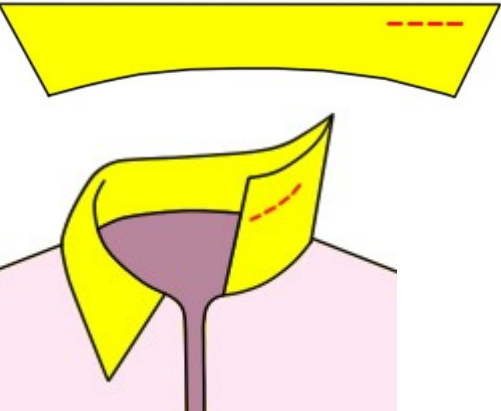


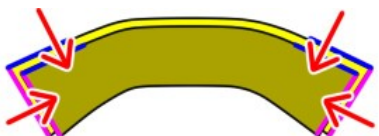
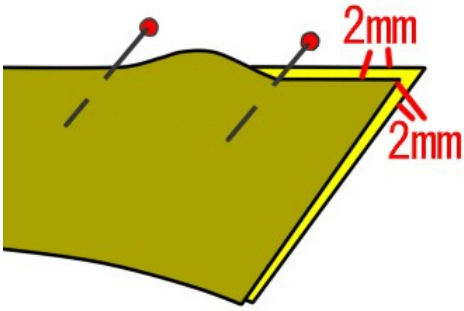






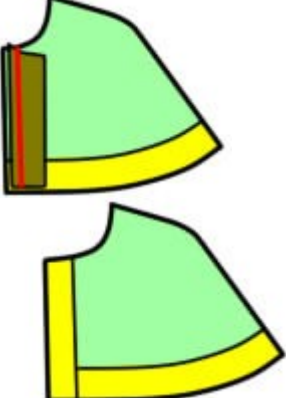
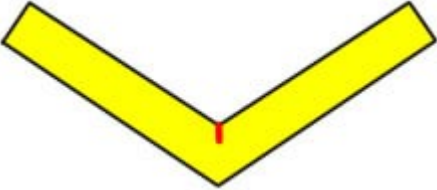
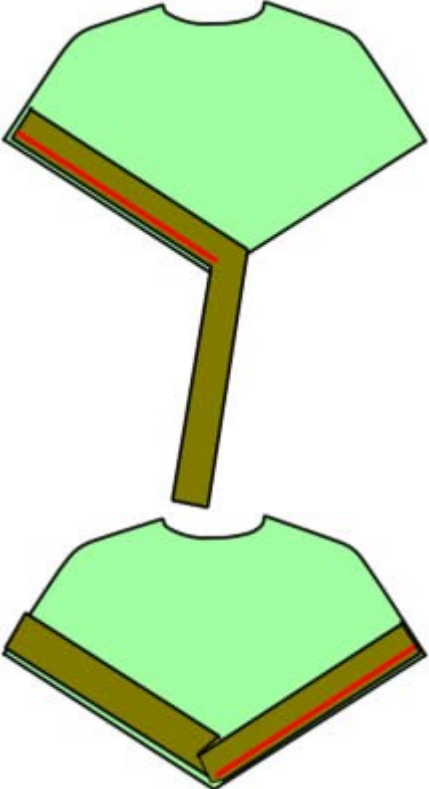
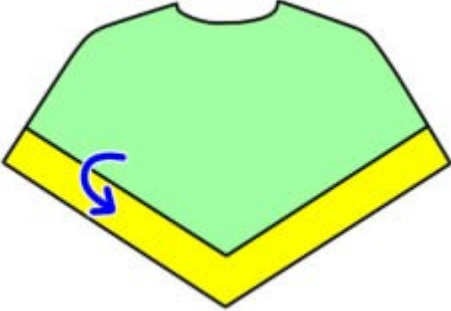




	<p>ケープの前後の肩から脇を縫う</p>
	<p>見返しの肩を縫う</p>
<p>えりをつけない場合はえりの縫い方の部分は飛ばしてください</p>	
	<p>どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけておく。</p>
 <p style="text-align: right;">図 1</p> <p>図 2</p>	<p>えりのゆるみを作る理由。 このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと首にそったカーブ(図 1)がありますね？</p>  <p>外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。 なのでその分を補うために2~3mm表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。 これをしないと図 2 の右のえりのように引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。</p>
	<p>えり先のゆるみを作る。 このとき図 A のように「表に見えるほうのえり」(印の付いていない方)を2~3mm内側にずらしてまち針をさす。</p>

	<p>しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を押しこむようにして縫う。</p>
	<p>シャツカラーの縫い方 衿(えり)を表が内側になるよう(中表)に二枚重ねて縫う。 ※衿に縫い付ける所は縫わない。</p>
	<p>表に戻して5mmの所にステッチ(形が崩れないように表から押さえ縫い)をかける</p>
	<p>印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折る。 この時えりがずれます。 このずれが折り返しの緩みになります</p>
	<p>上で出来たずれを、そのままに端から0.5cmの所を縫う</p>
	<p>えりやフードを付ける場合はここでえり首に襟を付ける</p>
<p>えりつけここまで</p>	
	<p>後裏地にすその見返しを付けてください。 縫い代は上側に折ってください。</p>
	<p>前裏地に前中心の見返しをつけてください。 縫い代は脇に向かって折ってください。</p>

	<p>後すその見返しの縫い代に切込みを入れてください。 (縫い代の内側・8 mmくらい)</p>
	<p>後裏地にすそ見返しを縫いつけてください。 縫い代は上側に折ってください。</p> 
	<p>裏と表の裏地を表同士が内側になるように重ねてください。 肩を縫ってください</p>
	<p>表地と裏地を表が内側同士になるように重ねてください。 後のすそを少し空けて縫い代を縫ってください。 あけたところをアイロンで折り目をつけてください。 あけた所から表にひっくり返してください</p>

	 <p>ケープの周りを、端から 5 mm の所を縫う。 えりをつけた場合はえりをよけて縫う。</p>
<p>前の固定の仕方</p>	
	 <p>前中心にリボンを縫い付けたり、コート用のボタンをつけてもいいです</p>
	<p>またお好みで前中心のパーツを 2 枚重ねてバイアステープで包む 裏側にスナップボタンをつける。 ケープにもスナップをつける。</p>

いるもの

表生地、裏地をつける場合裏地、接着芯、ボタン

お勧め記事

綿ツイルやポリエステルツイルなど

ウール

このデザインはテロテロしない生地ではなくしっかりした生地を使うと上品に仕上がります。